

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市黒川青少年野外活動センター	評価対象年度	令和2年度
事業者名	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者名 特定非営利活動法人 国際自然大学校 ・代表者名 理事長 佐藤 初雄 ・所在地 東京都狛江市岩戸北4-17-11 	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 7,452人 (令和元年度:26,632人)	②年間延べ利用団体数 396団体 (令和元年度:857団体)						
収支実績	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1 収入 指定管理料 其他収入 <hr/> 合計 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 単位:円 30,448,688 1,788,868 <hr/> 32,237,556 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 2 支出 人件費・賃金 光熱水費 委託費 消耗品費 修繕費 報償費 その他 <hr/> 本部繰入額 合計 </td> <td style="vertical-align: top;"> 17,326,255 948,987 2,717,000 743,229 2,122,805 892,558 3,615,349 <hr/> 3,858,624 32,224,807 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 3 差引 </td> <td style="vertical-align: top;"> 12,749 </td> </tr> </table>		1 収入 指定管理料 其他収入 <hr/> 合計	単位:円 30,448,688 1,788,868 <hr/> 32,237,556	2 支出 人件費・賃金 光熱水費 委託費 消耗品費 修繕費 報償費 その他 <hr/> 本部繰入額 合計	17,326,255 948,987 2,717,000 743,229 2,122,805 892,558 3,615,349 <hr/> 3,858,624 32,224,807	3 差引	12,749
1 収入 指定管理料 其他収入 <hr/> 合計	単位:円 30,448,688 1,788,868 <hr/> 32,237,556							
2 支出 人件費・賃金 光熱水費 委託費 消耗品費 修繕費 報償費 その他 <hr/> 本部繰入額 合計	17,326,255 948,987 2,717,000 743,229 2,122,805 892,558 3,615,349 <hr/> 3,858,624 32,224,807							
3 差引	12,749							
サービス向上の取組	野外活動に関する知識や技術が豊富な職員が指導にあたり、満足度の高い体験や世代間交流、地域交流の場を作っている。また、事業実施後には反省会を開き、改善点を指導マニュアルに反映させており、事業の充実を図っている。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
利用者満足度	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	(評価の理由) ・感染症対策を講じながら、「森のようちえん」プログラムや幼児からシニア世代の多世代交流を推進する取組として「しめ縄飾り作り」を実施するなど、野外活動に関する専門性を活かした事業を実施した。 ・「森のようちえん」事業では、慣れていない児童にはプログラムをゆっくりとしたスケジュールで実施し、経験がある児童にはいろいろなことにチャレンジさせながら実施するなど、児童の状況に合わせた内容で効果的に実施した。 ・施設内の水場や薪置き場、ミズポストなどの各内容に沿ったSDGsのロゴをステッカーにして関係する各所に掲示するとともに、ホールにSDGsの啓発ポスターを掲示して、利用者への啓発活動を行った。 ・利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、休所を含む施設の使用制限や活動内容の制限、イベント等の中止・延期等を受けて、前年度の利用人数と比べ大きく減少した。(72.0%の減)				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか					
(評価の理由) ・適切な金銭管理・会計手続について、毎月の収支状況を本部担当者がチェックするなど、会計処理及び金銭管理のための規則等に従って会計処理及び金銭管理を適切に行っている。 ・効率的・効果的な支出について、当年度は量の張替えやホール水銀灯のLED化など、コロナ禍における状況を踏まえた経費の執行や経費節減に努めており、全体として効率的・効果的に執行されている。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
把握したニーズが事業運営へ反映されているか					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・事業の広報について、ホームページやチラシ、SNSを活用するとともに、地域紙のタウンニュースへの取材協力、近隣の企業・団体との交流を行うなど多様な手法での広報活動を行った。 利用者への対応について、空き室を乳幼児プログラム提供時の保護者の待機場所として提供するなど、利用者の利便性向上を図った。 地域との良好な関係を保つよう努め、利用者からの苦情や意見に対して迅速に対応するとともに、朝礼や職員会議を通じての情報共有や職員間で共有するルーティン(メールやライングループなど)を構築して情報交換を行うなど適切に対応している。 学校及び行政機関との連携について、中止となった自然教室の代替プログラムとして栗木台小学校と片平小学校には里山体験授業、麻生小学校を、片平小学校にはドラム缶ピザによる屋外調理を、それぞれ感染症対策を行いながら実施し、地域の学校との連携を図った。 利用者ニーズについて、受付時に必ずアンケートを渡し、退所時に提出してもらうことで、施設の利用方法について要望などの利用者ニーズの把握を行うとともに、利用者とのコミュニケーションを取りながら要望の把握に努め、利用者役に立つ備品提供やプログラム提案などを行っている。 					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置について、主催事業の計画に合わせた柔軟な勤務体制を組んで対応しており、利用団体からの依頼に応じて野外活動の自然体験活動指導者資格を持つ有資格者を配置した。 職員の研修体制について、森林等の整備に必要となる刈り払い機取扱講習会に職員3名が参加するなど、野外活動の振興と普及に繋がる研修等を積極的に受講し、職員のスキルアップに努めた。 個人情報等の取扱について、個人情報を個人情報規程や個人情報ポリシーに従って厳重に管理し、法人に設置する個人情報取扱責任者のもと、個人情報取扱担当者を選任して各現地職員への教育と訓練を行っている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
		利用者の安全確保			
	防犯対策	施設防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	4	4
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理について、定期的に専門業者による点検を実施したほか、職員による日常点検を毎日実施し、月1回の作業日を設定して時間をかけて清掃等を実施した。また、敷地内の森林整備や散策路については、地域のネイチャーボランティアや地域の利用団体の協力により適切に整備・管理している。 利用者の安全確保について、引き続きリスクマネージャー(安全管理者)を設置し、施設運営におけるリスク管理の担当者として、他施設における事故トラブル事例の収集やリスクの予測、事故防止対策などの安全管理対策に当たっている。また、感染症対策として、利用申請の際に通常の確認書と併せて感染症対策のための資料を配布して説明することにより、利用時の不安や疑問を事前に解消するように努めるとともに、利用当日もオリエンテーションなどを行って安心して利用してもらえるようにした。 防犯対策について、施設内点検をはじめ、立ち入り者への積極的な声掛け、警察署の定期的な巡回訪問を依頼するなどの取組を行った。 災害への対応について、避難訓練を行い、災害発生時の手順をシミュレーションにより確認したほか、麻生区危機管理室が実施した旧白山中学校での防災訓練において、メタルマッチを使った火起こし体験と、薪を使って羽釜でご飯を炊く体験の指導を行い、センターで行っているアウトドアの知識や技術が、防災に役立つことを広報し、麻生区の防災ブックや配信用動画に掲載された。 					

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

区役所の防災訓練において、災害時の体験指導や中止となった自然教室の代替としての学校団体の受入れなど、積極的に地域や学校との連携・協力に取り組み、幼児から成人まで、幅広い年齢層に対応した青少年体験事業を実施し、また、必要な指導等を行うことで、野外活動の振興と普及に寄与している。当年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、休所を含む施設の使用制限や活動内容の制限、イベント等の中止・延期等を受けて、多くの主催事業が中止となり、利用者数は大きく減少する結果となったが、利用申請の際に感染症対策に係る案内を行うとともに、参加者が少人数単位に分かれて取組めるように配慮したことなどにより、コロナ禍における施設の役割を果たしていると評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も都市における貴重な自然を多くの市民に知ってもらい、安全管理に十分に配慮しながら身近に野外活動を体験できる環境づくりを進め、感染症の拡大により減少した利用者の回復とその信頼の獲得に努めること。また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、地域との連携をより一層強化し、野外体験活動を通じて青少年の健全な育成が図られるような魅力ある事業を展開すること。